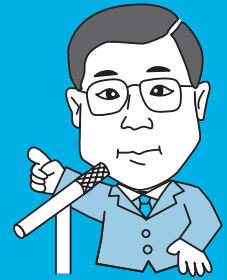


市長の まちづくりメッセージ

市役所では、毎月の初日に「市長のまちづくりメッセージ」を放送しています。市民の皆さんと『共創・協働のまちづくり』を進めていくため、その一部を掲載します。



積極的な光市の情報 発信について

今月2日から27日まで、広島市の、広島銀行本店ロビーにおいて、光市の観光情報展を開催しています。光市を訪れる県外客の多くは隣の広島県からで、過去には、昭和40年代まで、広島市内の高校生が室積海岸に大勢、臨海学校に訪れていました。

これまでも周南地域の観光PRのため、他市と合同で観光宣伝を広島で行ってきましたが、このたびは光市独自の観光客誘致活動です。広島銀行のご好意により、最も光市が輝く夏を目前に、多くの人口を抱える広島での情報発信を目的に計画したものです。かつて臨海学校で訪れたまちを懐かしみ、再び光市を訪れていただく、また、初めて光市のことを知る方々にも、「行って見たいな、魅力のあるまちだな。」と思ってもらえるよう工夫を凝らした観光パネルを作成しました。

団塊の世代が退職期を迎え、ふるさとへのU・J・エターナが本格化している今日、住んでみたいまちを住民が選択

する、地域が選ばれる時代において、これまで以上に光市の魅力を市内外へ情報発信することが必要となります。

この観光情報展は、広島銀行の方が光市役所を訪れられた際に、商工観光課前の観光パネルを賞賛されたことがきっかけとなりました。

情報発信の重要性は言うまでもありませんが、ともすれば、決まったルートのみでの情報発信となってしまうこともあります。

職員の皆さんは、日常業務の中で、多くの人や関係機関の方と出会う機会があります。そういった人とのつながりを大切にして、さらなるネットワークを構築し、多分野・多方面にまちづくりの取

り組みをしつかりと情報発信をしてください。

完璧はない災害に対する 備えについて

連日テレビや新聞で報道されていますが、先月12日、中国の四川省でマグニチュード8.0の大地震が発生しました。犠牲者は死傷者・行方不明者合わせて46万人を超える大災害となりました。

また、この地震の直前に発生したミャンマーでのサイクロンの被害など、世界各地で相次いで大規模な自然災害が発生しています。

こうした中、光市では安全で安心して暮らすことの出来るまちづくりを目指し、広報ひかりでの啓発や、携帯電話のメール配信サービスの実施、また、昨年9月には山口県総合防災訓練を本市で開催するなど、市民の皆さんとともに、災害に対する備えや防災意識の向上、地域の連帯感の醸成など、積極的な取り組みに努めています。

その結果、自主防災組織は38組織、組織率にして約44%と、着実に増加しています。また、先月30日には、被害

を最小限に食い止める、ハード、ソフト対策の検討を行うため、市をはじめ、防災関係機関が合同で現地調査を行う、防災パトロールを実施しました。

「備えあれば憂いなし」とよく言われますが、資機材や防災グッズなど災害時必要となるモノの備えとともに、災害時のさまざまなケースを想定するマニュアル等の備えも必要です。災害はしばしば我々の予想をはるかに超えることがあります。各部署において今一度、災害時の自分たちの役割を再確認し、情報を共有化するなど、即時の対応が出来るよう万全の体制を整えてください。



広島銀行本店での光市観光情報展



工事中の塩田十王砂防堰堤